



体育施設を利用して健康増進を図りましょう

スポーツ基本法には「スポーツは、心身の健康の保持増進に重要な役割を果たすものであり、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠」と規定されています。

スポーツを楽しみながら継続することで、生活習慣病の予防・改善や、介護予防を通じた健康寿命の延伸などのほか、社会全体での医療費抑制への貢献が期待されています。

スポーツ庁では第2期スポーツ基本計画の中で「成人の週1回以上のスポーツ実施率を65%程度となることを目指す」としています。

スポーツに親しもう

市内には野球場、庭球場、体育館、近隣では数少ない弓道場など、さまざまな体育施設やスポーツ公園があり、年間約20万人が利用しています。さらに、多目的に利用できるサッカー場の整備も進めています。

その中でもスポーツの森公園は「スポ森」の愛称で親しまれ、野球やテニスのほか、ストリートバスケットなどさまざまなスポーツが楽しめる市民スポーツの拠点です。スポ森には緑も多く、ウォーキングやランニングに最適で、心身をリフレッシュすることができます。また、総合体育館内にあるトレーニングルームは、豊富な種類

のトレーニングマシンを設置しているため、利用者から好評を得ています。抗ウイルス効果がある光触媒や、パーティションを設置するなど感染症対策も徹底しているため、安心して利用できる点も人気の一つになっています。

コロナ禍における運動不足の解消や気分転換のためにも、市内にある充実した施設を活用してみたいはいかがでしょうか。



機器が充実しているトレーニングルーム

スポーツ教室

市では体育施設を利用して、スポーツへの参加のきっかけづくりと、運動を通じた健康づくりを推進するため、年間を通してさまざまな教室を開催しています。

- ヨガ教室：全8回(1月から開催)
- 親子卓球教室：全12回(開催中)
- 初級テニス教室：全16回(今年度は終了)
- 軽体操教室：全8回(今年度は終了)

あさひ輝いた人々

第38回

**町づくりに
ささげた人生**

すが や だい さく
菅谷 大作 (1910~2003年)



大作は干潟町長を5期務めた人物です。明治43(1910)年、中和村の菅谷家の長男として生まれました。昭和3(1928)年に旭農学校を卒業すると、すぐに家業の農業に励み、菅谷家を発展させていきました。その人望から昭和26(1951)年、40歳のときに村議会議員になり、副議長も務めました。

この頃、全国的に町村合併が進められており、大作もその実現のために寝る間も惜しんで取り組みました。昭和30(1955)年に無事に萬歳村、中和村、古城村の3村が合併し干潟町が誕生すると、引き続き町議会議員として新しいまちづくりに力を尽くしました。また、昭和39(1964)年に干潟町中和農業協同組合の組合長として、

旧3村の農協の合併にも取り組みました。

昭和42(1967)年には2代目の町長に就任し、昭和62(1987)年、77歳になるまでの5期20年にわたり町政を担いました。税の21年連続完納、県第1号となる農村総合整備モデル事業の導入、集合養豚経営の導入、中学校の統合、校舎の整備など、その持ち前の行動力と決断力から多くの実績を残しました。また、中央公民館・庁舎・保育所・研修センターなど、多くの施設を建設し、町民が楽しめる豊かなまちづくりに生涯をささげました。さらに、地産地消の先駆けともいえる週6日制完全米飯給食導入のために、学校給食センターを建設しました。

長い公務のなかでも常に理想を高く掲げ、職員のミスや怠け心を許さず、理屈に合わないことには厳しく当たることがありましたが、明るく情愛深い面が大きかったので、多くの職員や町民から尊敬を集めました。



開発審議会の様子